


みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	気仙沼・南三陸地区住民の健康を支える会	
代表者名	芳賀 礼子 	
連絡先 TEL：090-4317-4749 FAX：無	E-mail sunwason52531@docomo.ne.jp	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	「まちの健康相談室（ぬくもり）」
事業の目的	震災発生時，退職看護職として単独で支援等を行った経験からネットワーク化の必要性を痛感し，離職・退職看護職で結成した。現職時代から行ってきた地域保健活動を継続しながら，自ら及び地域のエンパワメントを図り，被災地住民全体の健康度を向上させることを目指す。
事業の具体的内容	<p>平成26年度から7年間，宮城県看護協会が受託した「まちの保健室」を当会員で実施してきたが，震災後10年を区切りとして終了となった。終了後については従事者間でボランティアとして継続していくことを話し合い，令和3年度から「みやぎ生協福祉活動助成金」により事業を運営している。</p> <p>○事業の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施場所：商業施設（イオン気仙沼店） ・実施回数・開催月：12月を除き毎月1回15日固定で開催（8月は20日） ・受付時間：午前10時から午後3時 ・対象者：乳幼児～高齢者（年齢制限なし） ・従事スタッフ：毎回看護職7名，イオン薬剤師1名，理学療法士3名，ケアマネジャー3名，受付専門ボランティア（随時） ・健康相談内容：受付（個別相談票作成）→相談者自身による健康状況等の記載→健康チェック（血圧→体脂肪→ボディチェッカー

	<p>による血管年齢・ストレス度測定) →個別相談（看護職，薬剤師，理学療法士，ケアマネジャー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別相談内容：生活習慣病予防，介護，精神保健，母子保健，一般（対象者によっては本人の了解の下，市の担当課につなぎ，継続支援を依頼） ・ 事業運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ①17名の看護職の中にコーディネーター3名を配置 主な役割：全体的な流れや内容の検討・調整，器具機材の確認，事業実施報告書等の作成 ②年1回（年度末）「全体会」を開催 メンバー全員への事業実績等報告，次年度の予定・分担票の配付，意見交換 他 ③市・イオン気仙沼店・コーディネーター間の事業打ち合わせ会 ④事業の周知 気仙沼市の協力により毎月市の広報に掲載，イオン気仙沼店の協力により正面玄関にポスターで案内 ⑤「気仙沼・南三陸地区住民の健康を支える会」との関係 事業の実施状況等については隔月に1回程度，支える会の役員会の中で情報交換を行っている。
<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<p>○当日の流れ</p> <p>9：00 市の市民健康管理センター（器材等保管）集合 ミーティング後会場に移動</p> <p>9：30 会場設営，机イス等の消毒等</p> <p>10：00 ①受付（個票を準備） ②ボディチェッカーによる血管年齢・ストレス度測定 ③血圧測定・体脂肪測定 ④個別健康相談</p> <p>15：00 受付終了 相談者帰った後会場の片付け・消毒</p> <p>15：30 ミーティング後解散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当日のデータ及び相談内容等は，面接担当者が個別の相談票に記載 ・ 当日担当したコーディネーターが集計し，報告書を作成（市に報告）
<p>活動の成果と教訓</p>	<p>○令和4年度の実績</p> <p>①全11回中10回開催（コロナ感染拡大防止のため8月中止） 相談者283人，スタッフ数82人 （詳細は別添資料のとおり）</p>

	<p>②1回当たりの相談者は平均 28.3 人</p> <p>③男性の相談者が多い(38.5%) 商業施設で実施しているからこそその傾向（気軽さ等）と思われる。</p> <p>④40代から60代までの相談者は延 71 名（25.1%） 相談の内容は、健康や老後に関することから孤独を癒すための話し相手と多種多様である。</p> <p>⑤70代以上の相談者は延 212 人(74.9%) フレイル等高齢期特有の問題や課題に関するものが多い。看護職スタッフに加え、理学療法士やケアマネジャー等との協働により、市民の健康寿命の延伸や介護予防に効果が期待できる。</p> <p>⑥定期的な相談者は 237 人(83.7%) 年間の相談日を決めていることの効果と思われる。</p> <p>⑦相談で最も多いのが『生活習慣病』に関することで全体の 50.5%である。医療を受けている人が多く、日常生活の様子の確認等重症化防止等の観点からのアプローチを行っている。医療につながっていない人や医療中断中の人、医療不信の問題を抱えている人もあり、それぞれに対応している。医療開始した等の喜びの報告を受けることも多い。</p> <p>⑧生活習慣病予防に関しては、セルフケア能力を高められるような支援を心がけている。健康チェック等の結果を基に動機づけを行い、実践、チェック（特定健診）等のサイクルの見守り役として市民にいつまでも寄り添っていけるよう、事業の継続が目下の目標となっている。</p> <p>⑨商業施設で行う健康相談の特徴として、気軽さの他に買い物客等で賑わう雑踏の中だからこそ深刻な話がしやすいということ等、意外な側面に気づく良い機会となっている。</p>
<p>今後の展望など</p>	<p>①リタイアした看護職それぞれの経験等を結集し、生きがいをづくりを兼ねた地域貢献</p> <p>②商業施設とのタイアップによる市民の便宜に添った健康相談の継続実施</p> <p>③市の地域包括ケアシステムの中に位置づけられた事業として、その役割の一端を担いながら、さらに市の健康課題に沿った支援</p> <p>④市初の健康ボランティア団体として、組織の充実を図る</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	198,000	
その他	150	寄付
合計	198,150	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
交通費	相談会交通費@500×延 82 名 全体会交通費@500×16 名 コーディネーター@700×延 46 名	99,000	100,800
消耗品	血压測定用枕	4,000	5,500
	アクリル板 5セット	45,000	18,440
	消毒剤, フェイスシールド, マスク等	15,000	21,684
	インクカートリッジ, コピー用紙, ファイル等	20,000	32,455
	のぼり旗用ポールセット 2台	0	7,721
	ボディチェッカープリント用紙	15,000	11,550
合計		198,000	198,150

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

② 領収書のコピー (郵送)

③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)

*写真は郵送とメールで送ってください。



まちの健康相談室 ぬくもり



買い物そっちのりで、健康相談優先！



「あら～、元気になっていた？」社交の場。



薬剤師のお薬の相談などできて安心。



「今日の血管年齢は？」
「年齢より若い！ いいね。」



男性の方の来所も多く、顔なじみのお客様。



毎月のようにお礼のはがきが届き、私たちの励みにもなっています。

